

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970100174		
法人名	株式会社シティブランナー		
事業所名	フレンドニヶ辻		
所在地	奈良県奈良市尼辻西町8-10		
自己評価作成日	令和4年10月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigvovocd=2970100174-00&ServiceCd=320&Ivpe=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和4年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても手助けがあれば出来ることがたくさんあります。その人としっかり向き合い 職員家族様との情報の共有化をはかり 自立支援に向けた生活リハビリを多く取り入れ その人らしい生活ができるように努力しています。新型コロナのため外出や地域との交流が制限される状況です。家庭的な雰囲気の中で入居者の方々が笑顔で過ごせるように取り組んでいます。御家族様の面会も制限させて頂いている為 電話で話して頂いたり 中庭からのガラス越しの面会等 御家族様に安心して頂けるよう工夫しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は近鉄駅前の住宅地で交通の便が良く、近くには大きな天皇陵があり、田畑も残っていて環境が良い。古民家を改造したコの字型の建物で、広い中庭には立派な樹木も植わっており、落ち着いた雰囲気である。職員の定着率も良く、外国人の実習生の指導にも当たっている。台所は、オール電化でされ、食事は近隣の農家から調達した新鮮な野菜なども使っており職員が手作りしている。古民家をうまく生かした家庭的な雰囲気の事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1 ご自分らしい安心できる生活をお手伝いします 2 ご入居者様の尊厳を守ります 3 地域との連携に努めます 上記の運営理念を掲げ 目のつくようにして意識の統一を図り実践している。		玄関に法人の三つの運営理念と「職員の心得」を掲示している。事務室にも掲示し、職員は日常的に見て確認しているが、より具体的な行動指針や事業所独自の年間目標等があればさらに良いと思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為 入居者の方々がなかなか地域の行事に参加できないが ラジオ体操、草刈等スタッフが参加させて頂いている その都度入居者様の事をいつも気に掛けて下さいます。		閑静な住宅街なので、地域との繋がりは密接である。自治会に加入しており、回覧板も廻ってき、久しぶりに開催された地域の秋祭りにも参加した。農家の方が野菜を届けてくれる等地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い取り組んでいる。中庭には近所の方から頂いたお花の苗やハーブをうえて一緒に楽しんでいただいている。		/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会 地域包括支援センター家族様にも参加していただき2カ月ごとに開催している。今年はコロナ感染拡大防止のためなかなか開催できないが民生委員のかたから入居者様にお手紙をいただいている。		コロナ禍のため、2ヶ月に一度の書面開催の形式で行っている。関係者に運営状況や行事等を報告しているが、アドバイス等を聴取できていない。	コロナ禍が長く続いており、リモートで会議をしたり、書面開催でも関係者の意見やアドバイス等を具体的に聴取をする工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの現状を報告したり指導をしてもらっている。社会福祉協議会の方もきてくださり相談にのっていただいたり行政との連携をはかっている。		生活保護受給の方がおられ、市の保護課と密接に連絡を取り合って支援している。また、被後見人の方もおられ、奈良市社会福祉協議会とも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居契約時にも身体拘束を行わないことを説明させていただいている。管理者やスタッフは年2回内部研修に参加し知識を深め周知徹底している。		身体拘束をしないことを重要事項説明書に記載し、入居時に家族にも説明している。年2回の法人本部での身体拘束に係る研修会に出席し、それを職員全員にフィードバックして徹底を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてもケア会議で研修を行い職員が無意識のうちに虐待をしていないかケアの見直しをおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は内部研修を通して学びその内容をスタッフに説明し教育している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書 利用契約書を文書で説明している。理解していただけなかったか疑問点はないか確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の思いは日々のコミュニケーションの中で聞くようにしている。それらをケア会議で話し合い入居者様の思いにこたえるようにしている 来訪時には意見を聴く機会を設けている。契約時に苦情受付窓口について説明している。	以前は面会時に家族等の意見・要望等を聴いていたが、コロナ禍で現在面会しにくい状況が続いているので、主に電話で聴く様になっている。家族へは、月1回の請求書送付時に利用者の写真入りの近況報告を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。毎月のケア会議はスタッフが意見を述べやすい雰囲気である。不満や提案なども聞き相談しながら反映できるように取り組んでいる。	職員はケアの方法や業務関連で意見があれば、随時話し合っている。また、月1回のケア会議でも活発な意見を出し合って話し合っている。更に管理者は年2回、職員の個人面談を行い、業務に対する姿勢や意見等を聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は月1回 管理者会議に参加し 現場の状況を相談できる状態である。OJTチェックリストを活用し 給与への査定にも反映できるような取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ専用のチェックリストを用いてOJTをすすめている。プリセプターを決め 個々の指導を行い ケアの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	学会 音楽祭 健康祭り スポーツイベントなど交流する機会を設けてくれている。研修や勉強できる場を設けてくれている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時には利用を前面に推し進めるのではなく本人の困っている事 不安なこと要望をよく聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた際にはご家族様が困っておられる状況を傾聴し 説明させて頂き 他のサービス等も知りたい方には グループ内外のサービスの説明を行い信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方がグループホームの利用が適切かどうか相談員等と連携をとりながら見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で 人生の先輩として尊重し お互いに支えあっている関係を築いている。その方の出来る事や本人の希望していること 意向を伺いながらして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症の方を家族様を含めた地域で支えるということを念頭に置き キーパーソンと関係を密にし 共に入居者様を支える関係を築いている一言通信等送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの場所や編み物教室等へ行くことも難しいが 友人からの年賀状の返事を書いたり 馴染みの関係が途切れないように支援している。	コロナ禍で中止の教室もあるが、入居者は公民館で行われる編み物教室・手芸教室に参加している。最近では歌の発表会があった。近所への散歩は、職員が付き添って現在でも継続して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大家族のような生活の中で自然に役割分担ができていて その人らしく生活されている。トラブルが出そうときは必ず見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居された方や 同じグループ内の他施設に移られた方もいるが スタッフは時々顔を見に行かせてもらったり 定期的に情報を共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご意向や思いに沿った暮らし方をさせて頂いている。その方の生活歴や習慣も掘り起しその人らしい個性を尊重している。	入居前に利用者の自宅を訪問し、本人の部屋や生活環境を把握している。アセスメントシートにはそれらの状況とともに、家族の意見なども聴取して記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを作成して生活歴 趣味 好みを把握している。ご家族様や本人の日常の何気ない会話からこれまでの生活歴を感じ取り 日々のケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日々の様子を記入しており スタッフ間で情報共有している。インシデント等のツールを利用して個々の状態の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活から入居者様の意見や要望を聞き家族様の面会時には積極的に意見を伺うようにしている。ケア会議でスタッフ全員で話し合って情報を共有し介護計画を作成している。	管理者がケアマネで1年毎に介護計画を作成している。作成に当たっては職員の意見も聞き、家族とも相談の上承認を得認め印を貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を用意して、日常生活の様子や、バイタル 食事摂取量、排泄状態、ドクター往診時の記録をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じて、家族と相談し、家族の代わりに通院介助や受診の便宜を図っている。グループホームでの生活が困難になった場合は本人様家族様かかりつけ医と相談し可能な限りの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為地域の公民館の行事は開催されていないが近所の方が畑で採れた野菜や庭の花を持って来てくださる。地域交流の中で入居者様の豊かな生活を送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科往診を受けている。精神科 整形外科 眼科等の受診が必要になった場合も家族に連絡をとり希望があれば受診するようにしている。	協力医が月に2回、訪問診療を行っている。又、健康管理と服薬管理のため、法人の看護師が週1回訪問している。本人のかかりつけ医には、家族が付き添って受診している。毎月送る一言通信にも、健康状況を知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週1回入居者様の健康管理を行っている。日々の関わりの中で気付いたことを看護師に伝え必要時には看護師からの指示通りに処置を行ったり適切な受診が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師や管理者が定期的に訪問し、状態の把握に努め、退院時に家族、医療機関、フレンドとのカンファレンスを行えるように、関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を策定し重度化終末期に入る前に往診医看護師 職員がご家族とカンファレンスを行い方針を決めている。	看取りの指針を作成し、入居時に説明している。終末期になると、家族と医師、及び関係者で相談してその後の方針を決める。重度化や週末期の方もおられるので、カンファレンス等を行って、関係者で連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、ケア会議の中でも話し合い、周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をおこなっている。コロナ感染防止対策のため今年は参加できていないが 地域の避難訓練に入居者さまも参加している。	年2回(6月・11月)消防署へも届出の上、避難訓練を実施しており、内1回は夜間想定で行っている。コロナ禍前は、地域の避難訓練にも入居者とともに参加していた。水やおかゆの備蓄も行い、停電に備えランタン等を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個性 人格を尊重した言葉をかけ対応し入居者様に共感するようにしている。入居者様が選択できるような声掛けをおこなっている。	利用者の個性や尊厳を損なわないよう、言葉遣いに配慮している。トイレ誘導の声掛けもさり気なく行っている。利用者同士が言い争いになったときも、双方納得した解決になる様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択、献立の希望をお聞きしている。洋服を見せて選んでもらったり、テレビやチラシを見て買い物に出かけたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務は、決まった時間に縛られるのではなく、利用者様のペースに合わせて行っている。居室で過ごされている方もいるが、定期的に声を掛けに行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容をされる方と家族様と一緒に、行きつけの美容室に出かけられている方がいる。個人の希望による服装や髪形にしているが、いつも同じにならないように声掛け支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は 季節感も重視し入居者様の好みに合うもの希望のあるものになっている。食事作り 盛り付け等も一緒にしている。お誕生日や 行事の時は一緒にメニューを決めている。	食事のメニュー作りは、利用者も参加している。近隣の農家の方が野菜などを届けてくださることがある。庭でも野菜を育てており、それを食することもある。調理や配膳をできるだけ利用者と一緒に行うようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランスや病歴に応じて 塩分糖分量を控えめにしたり 食事量を考えて対応している。また必要な水分を摂取できるよう 好みの飲み物やゼリーを作り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態に応じて支援している。状態が変化し際にはケアの方法を確認している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表を作りパターンを把握し できるだけトイレでの排泄を促している。誘導介助はさりげなく行っている。立位の取れない方には 職員2名でトイレ介助を行う方法を取っている。	トイレは2ヶ所にある。夜間に2名の方がポータブルトイレを使用している。排泄チェック表により利用者個々の排泄パターンを把握して、適切なタイミングでトイレ誘導を行い、排泄の自立支援を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト 果物 野菜等の摂取に努めている。また水分摂取を促し 体操や必要に応じてホットパックを用意し便秘予防にとりくんでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望や体調にあわせて週2-3回のペースで入浴していただいている。立位の取れない方は職員2名で介助を行っている。	風呂を毎日準備し、利用者の希望にそって、週に2・3回午後の時間帯で入浴できるよう支援している。入浴剤を入れたり、ゆずや菖蒲を入れて季節を楽しむこともある。また、スキンケアに気を使い、薬用保湿液を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で編み物をしたり 食事作り レクリエーションなど個々にあった生活のリズムを作るように配慮している。その方の状態に合わせて 日中無理なく活動して頂くことにより心地よい眠りにつけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用・容量については医師の指示等を確認し 支援にあたっている。また 医師と相談しながら 服薬の変更・調整等も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物ほし 洗濯物たたみ 掃除 食事の手伝いなど能力に応じて役割分担している。楽しみながら気分転換できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ禍のため 楽しみにしている歌の会や公民館行事も中止になりましたが 日常生活の中で中庭で季節ごとの野菜づくりをしたり 花を植えたり楽しんでおられる。	ホームの近隣は、天皇陵などの史跡に恵まれ田畑も残っており、日常的に景色を楽しむながら散歩をすることができる。庭でガーデニングや野菜を育てており、気軽に戸外に出て外気浴している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持している方は管理のお手伝いをさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用される際にはスタッフがお手伝いさせていただき話をしてもらっている。古くからの友人に手紙を書いている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆の集まるリビングには自由に思い思いに過ごしていただけるようにソファをおいて お気に入りの場所を確保している。玄関 リビングにも入居者様がお花を活けてくださっている。	古民家を改造した建物なので、和風な落着きがあり、ゆったりしている。広いリビングは採光が良く、燈籠のある日本庭園を楽しみながら穏やかな時間を過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるようにソファやいすを置いてテレビを見たり中庭を見たり お話をしたり楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ慣れ親しんだ家具などを持参していただき その人らしく居心地良く過ごせるように工夫している。	コの字型に居室が並んでいるので、どの部屋からも中庭が見え、落ち着いた雰囲気がある。自宅で使っていた家具やベッド、テレビなどが持ち込まれ、居心地よく暮らせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	滑りとめや手すりを設置して入居者様の状態に合わせるように工夫している。トイレの表札もわかりやすい文字で表示している。		